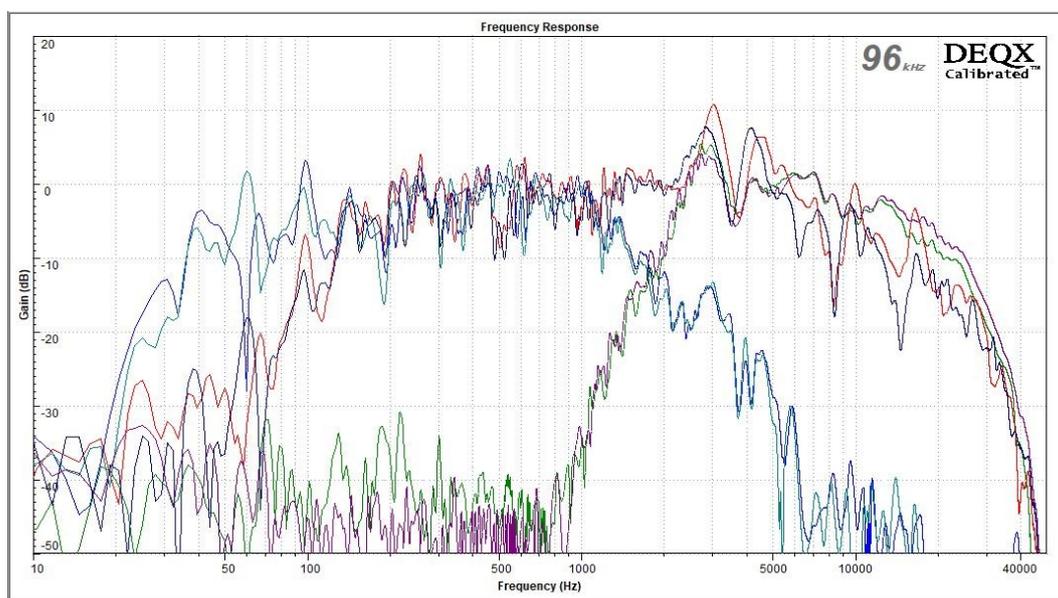
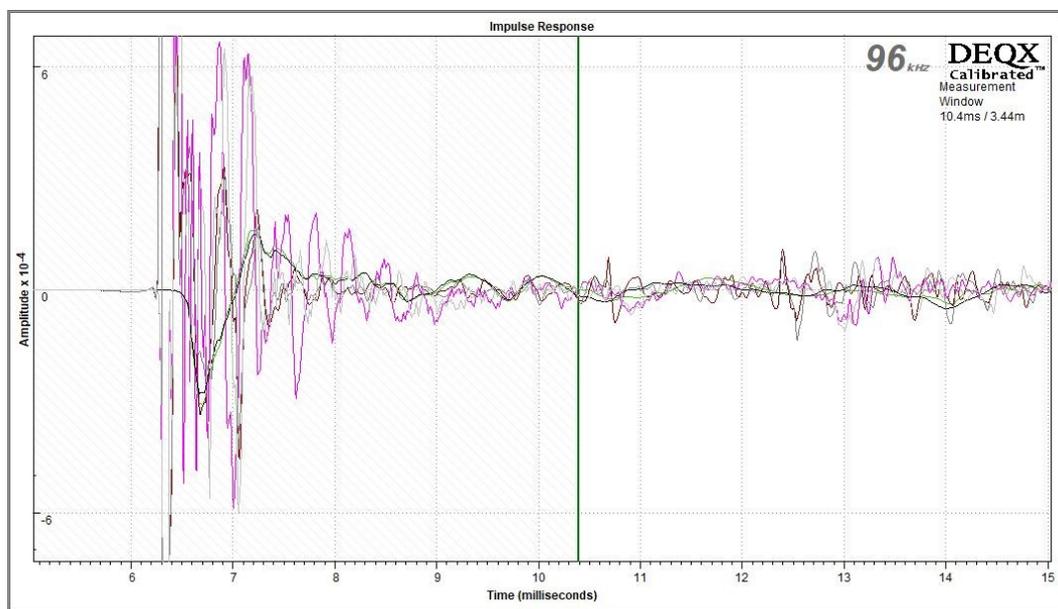


お送り頂いたデータから代表的なグラフを抽出して拝見しました。
いずれも理想的な測定とそれに基づいた設定がされていると感じました。
気付いた部分について、若干の補足をさせて頂きましたのでご覧ください。



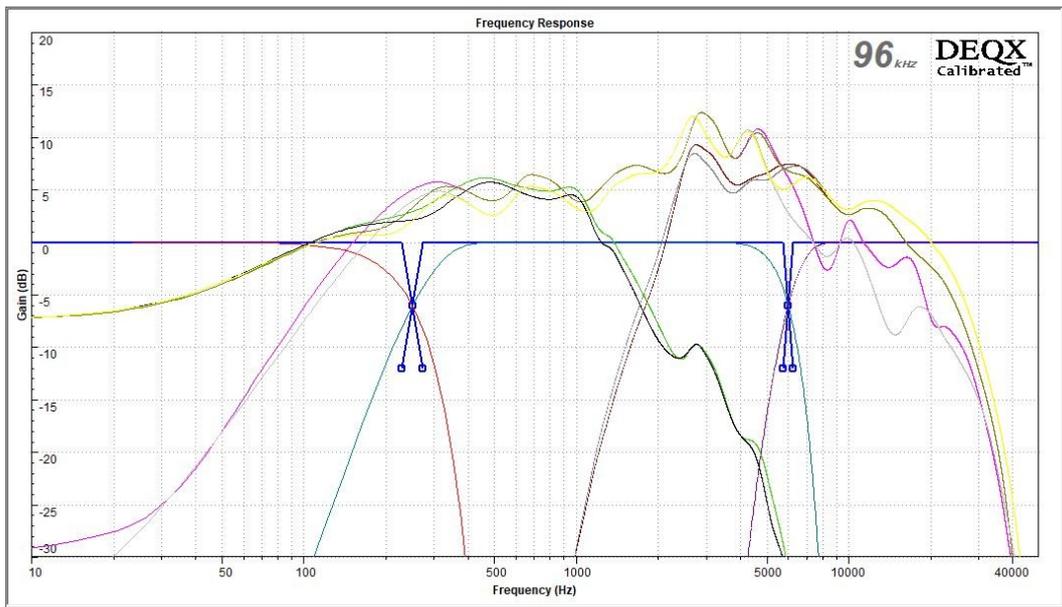
[図 1] Measure Speakers

- ユニットの特徴がよく判る測定結果で、音圧レベルも DEQX の設定に理想的な配分です。
- FE-208ESR の 2kHz と 3kHz のピークがなければ素晴らしいユニットだと思います。



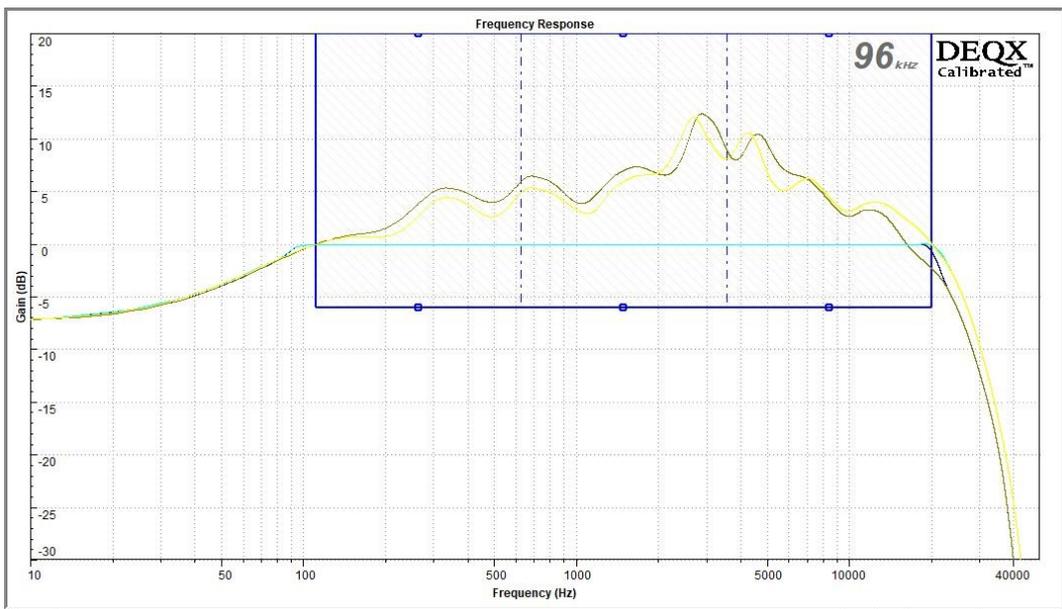
[図 2] Calibrate-1

- スピーカーシステム周辺の反射が少ない良好な測定結果だと思います。
- 緑のカーソルを 0.2ms 程度右に移動出来ますが大きな意味（効果）はありません。
- ツィーターの反射（10.7ms 辺り）を無視して 12.3ms 程度までが利用できそうです。
- その上で補正領域を低域側に拡大して低域のクロス を 150Hz 程度にしてみたい誘惑があります。



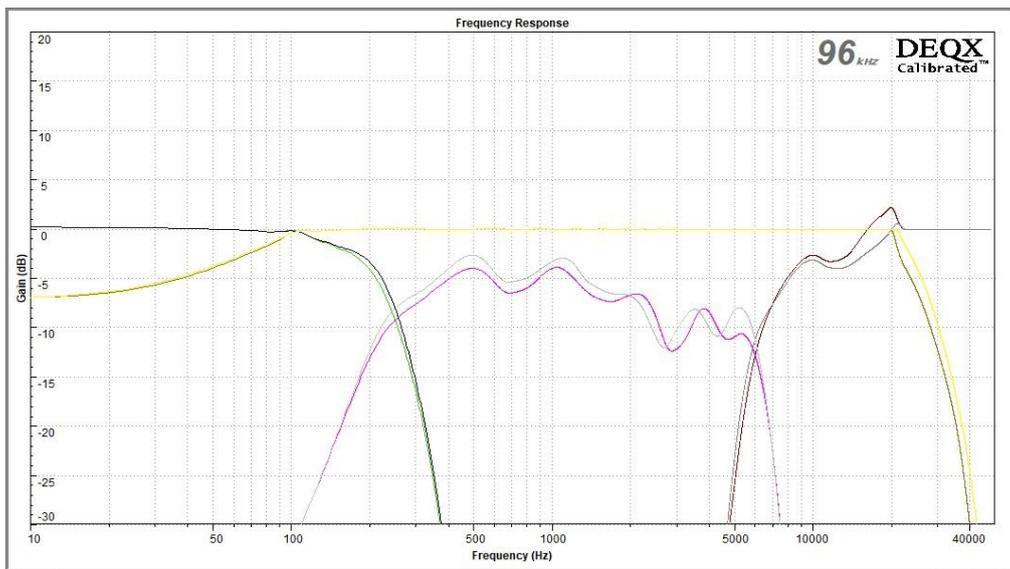
[図3] Calibrate-2

- Fostex ユニットで 275Hz という低いクロスオーバーが可能となったメリットは大きいと思います。

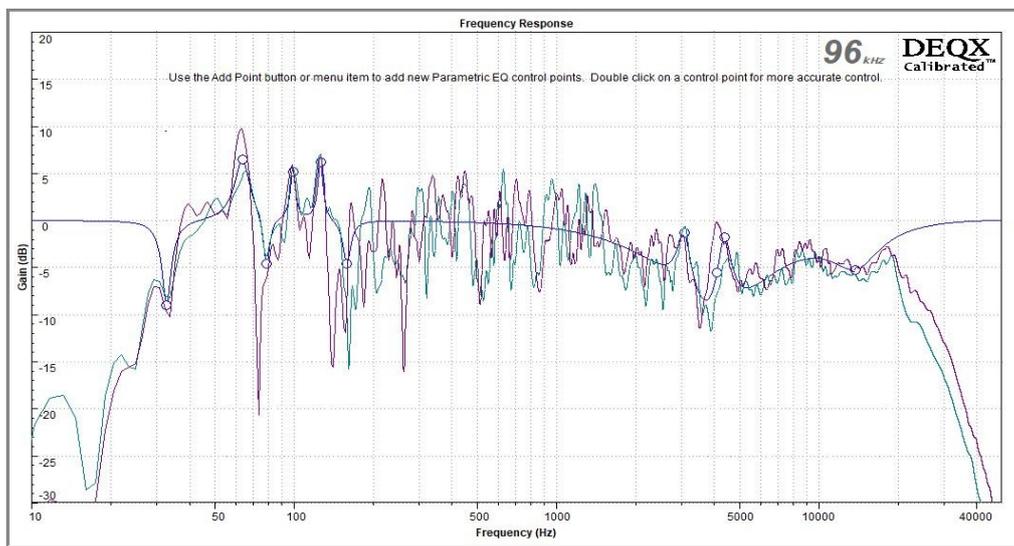


[図4] Calibrate-3

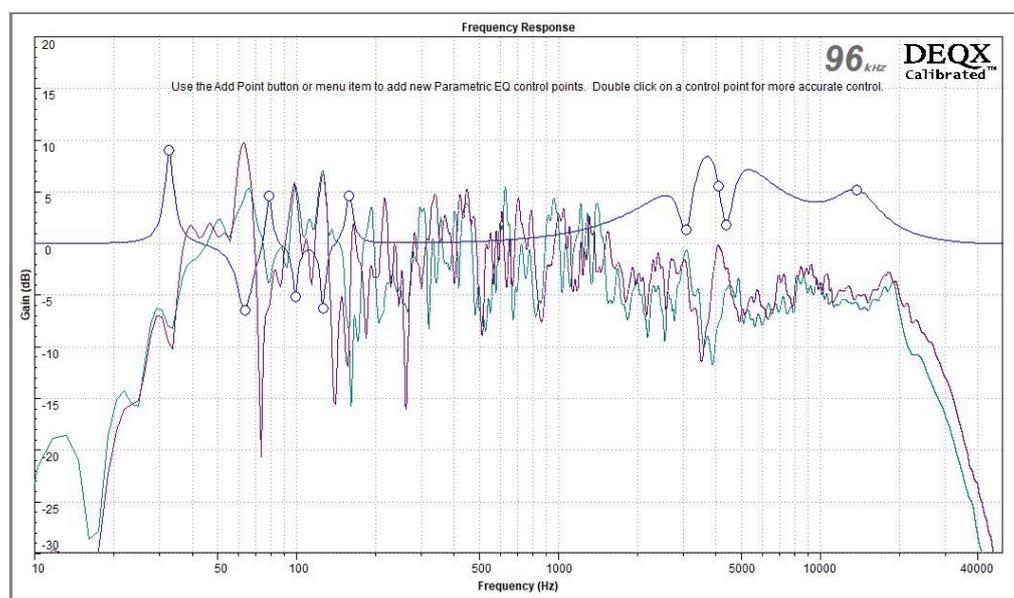
- 2kHz~5kHz で補正量がやや大きくなりますが、ユニットの性格上、やむを得ません。



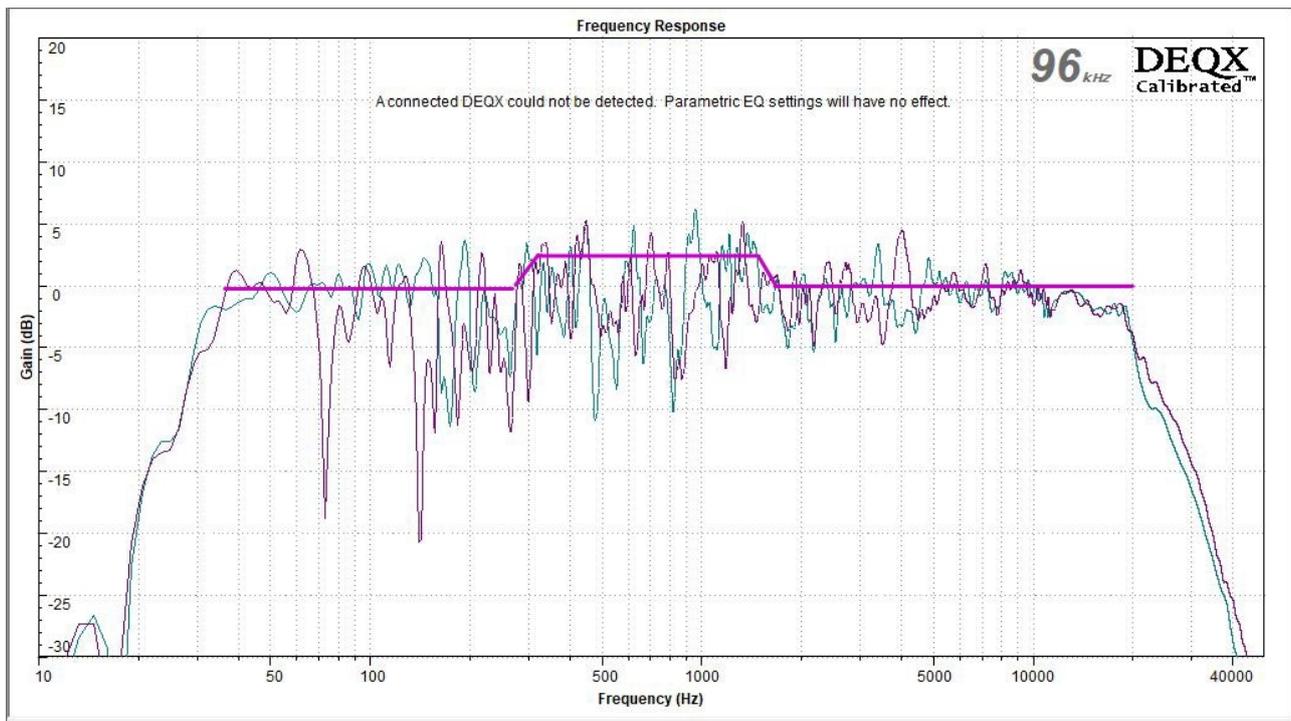
【図5】 Calibrate-4



【図6】 Measure Room & EQ (Invert)
 ・ Room 測定の数値に沿った EQ 設定は見事です。



【図7】 Measure Room & EQ (【図6】 を Invert)



[図 8] Room-EQ 補正後のリスニングポジションでの周波数特性

- これだけのフラットネスが確保できたのは素晴らしい！
- しかも、35Hz～20kHz までの広帯域再生ができています。
- 俯瞰して見ると 300Hz～1.5kHz に若干の膨らみがあり、ボーカルなどは厚く鳴りそうですね。

お願い

設定が一通り完了しましたら、写真数枚と感想文を戴けませんでしょうか。

User's Report に掲載させて下さい。

刺激を受けて多くの方が DEQX 設定にチャレンジされることを願っております。